

第 229 回 京都市の田辺朔郎像

筆者：林 久治（記載：2023 年 4 月 5 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」という意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。昨年の 7 月は、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、大阪在住の 3 人の孫達は夏休み前に感染したが軽症であった。そこで、私は 9 月初旬に大阪に行き、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 3 月 21 日から 31 日まで、大阪に滞在し孫達の世話をした。その間に、銅像探索も少しは出来た。[227 回の記事/f](#) では、その中から大阪市の弘世像の探索記を記載した。[前回の記事/f](#) では、茨木市の奥田光像の探索記を記載した。京都市の田辺朔郎像は大変有名で、[1\) のサイト/](#)には勿論収録されている。しかし、本像の基本情報が記載されていないので、今回、本像を探索した次第である。本稿は、田辺像の探索記である。なお、本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）京都地下鉄蹴上駅

私は、蹴上インクラインのケーブル跡の風景が好きで、これまでに何回か当地を訪問したことがある。その中で覚えていることは、蹴上駅の構造に欠陥があり、駅からインクラインに直接行ける出入口がなく、大回りを強制されることである。今回、私は 3 月 25 日に、家内と息子（40 代の独身）と 3 人で、当地の桜見物に行くこととした。私は、そのついでに、当地にある田辺朔郎像を探索しようと思った次第である。

私は「蹴上駅が大変不便である」ことしか記憶になかったので、事前に桜見物ルートを調査した。蹴上駅の周辺地図を、次ページの図 1 上に示す。本図にもあるように。「ねじりまんぼ」と呼ばれている古風なトンネル（図 1 下）から「蹴上疏水公園」に入る道が一番便利なることを思い出した。それ故、「蹴上駅の 2 番出入口から行けばよい」と思った。（本文は、3 ページに続く。）



図1. 上：蹴上駅の周辺地図、下：「ねじりまんぼ」トンネルの入口。

私共は、蹴上駅で下車した後、長い通路を歩いて「2番出入口」から地上に出た。すると、広い道路の丁度反対側に、古風なトンネルがあった。私は、自分のルート探索の成功を確信して、道路の反対側に渡る横断歩道を探した。驚いたことには、「2番出入口」付近には横断歩道はなく、遙か西側の横断歩道まで行かねばならないことを発見した(図1上の矢印のルート)。「京都人は、外来者を田舎者と蔑んで、密かに意地悪をする」とよく言われている。「蹴上の桜見物のルート」も、この意地悪の一種であろう。私は「蹴上の桜見物の際には、駅の1番出入口から行くべきである(図1上の点線矢印のルート)」ことを痛感した次第である。

「ねじりまんぼ」トンネルの横に、案内板があった。その写真を図2に示す。兎も角、明治時代の空気が感じられる面白いトンネルであった。



図2. 「ねじりまんぼ」の案内板

(3) 蹴上疏水公園の田辺朔郎像

蹴上インクラインの桜は丁度満開で、見物客でごった返していた。そこから少し離れた小高い丘の上に、田辺朔郎像は設置されていた。その写真を図3上に示す。本像の前までは、見物客は全く来ておらず閑散としていた。

図3上に示すように、立派な立像が中央にあり、その向って右側には大きな石碑があり、向って左側にも小さな石碑が2基あった。図3下左は立像の写真で、若者の顔をしていた。図3下右は本像台座正面の題字で、「田辺朔郎博士像」と書かれていた。

(本文は、5 ページに続く。)



図3.

上：田辺朔郎像の周辺、

下左：田辺朔郎像、

下右：台座正面の題字。



昭和五十七年十一月十五日建立
 制作者 江里敏明
 京都華頂ライオンズクラブ

図4. 上左：台座背面の彫文、
 上右：本像左側の前方の石碑、
 下：本像左側の後方の石碑。

京都華頂ライオンズクラブ
 結成10周年記念
 1982年11月建立

田辺朝郎は文久元年（一八六一）江戸に生
 れる。明治十五年（一八八二）工部大学校学
 生であった田辺は、京都の衰微を回復するた
 め、琵琶湖疏水の実現に奔走する京都府知事北
 近國道に会い、請われて翌年、京都府に着任
 し、財政と技術を案ずる反対派の説得に知事
 を助け、明治十八年（一八八五）起工後は設
 計、施工の総責任者となる。当時はほとんど
 機械、資材とてなく、いわば人力のみに頼る
 長さ二四三六米の長等山トンネルの工事は困
 難を極めたが、卓抜な技術と強い信念、不屈
 の精神力により、これを克服した。また優れた
 先見性により、世界で二番目の水力発電をこ
 の蹴上の地に実現し、産業動力源とするにと
 らる。おが国初の路面電車を京都に走らせた
 明治二十三年（一八九〇）四月、晴れの通水
 式を迎えた田辺朝郎は二十八才であった。
 わが国土木技術の黎明期を開拓した偉大な
 先覚者であると同時に、近代都市京都の基礎
 をつくつた恩人田辺朝郎の像を建て、ここに
 顕彰する。

京 都 市

図4上左に台座背面の彫文を、図4上右に本像左側の前方の石碑を示す。これらより、次の事が分かった。

本像は、京都華頂ライオンズクラブの結成10周年を記念して、1982年11月15日に建立された。制作者は江里敏明である。

私は「田辺像は、戦前からあり、戦後再建されたのではないか」と思っていたが、意外にも、本像は戦後の建立であった。図4下に、本像左側の後方の石碑を示す。本文の内容は、本像の概要に記載する。

江里敏明（えり・としあき）の略歴は、[3\) のサイト/1](#)に次のように書かれている。

1947年京都市生まれ。日展を主な発表の場とし、現在 日展評議員・日本彫刻会運営委員なども務める。主な作品に田辺朔郎像、北垣国道像、毛利輝元像、中岡慎太郎像、京都国体メダルなどがある。

また、江里は自身の生立ちを次のように書かれている ([4\) のサイト/2](#))。

私は佛師の家に生まれ、もの心ついた時から父の木を刻む音と香の中に育ち、小刀やノミを遊び道具として育ってきました。そのような環境の中、自然と彫刻の道に進みました。日展に出品し始めた頃は木彫での出品でしたが、徐々に粘土の自由さと面白さに惹かれ、塑像での制作が多くなっていきました。彫刻の素材としての木と粘土の違いはありますが、「マックス・ヴォリューム・ムーブメントなどの私の制作表現の根底には木彫の表現技術が色濃く残って」いるように思います。



図5. 工学博士田邊朔郎君紀功碑

田辺像の右横には、「工学博士田邊朔郎君紀功碑」と題する大きな石碑があった。その写真を図5に示す。私が本碑を撮影した時には、裏面の碑文に気づかなかった。帰宅後に調べてみると、裏面に長い碑文があることを知った。[5\) のサイト/1](#)のp. 499-p. 502には、その碑文が収録されている。また、[6\) のサイト/1](#)には、碑文の由来と全文が、次のように書かれている。

①田辺朔郎(1861～1944)は琵琶湖疏水工事を推進し、その後も京都市・京都府の土木事業にたずさわった。この碑は田辺の還暦を記念しその功績をたたえるために建てられたものである。最初の建立地は賀茂川と高野川の合流地点の出町剣先であったが、昭和16年に現地へ移された。京都市電気局編『琵琶湖疏水及水力使用事業』(1940年 同局刊)によれば大正12年7月19日除幕。碑文は山本竟山書。礎石の中に石の唐櫃を設け、疏水工事その他の資料を銅管内に封入して収めた。この碑の北隣には昭和57年に田辺朔郎の銅像が建立された。

②従三位勲二等工学博士田辺朔郎君紀功碑ノ記

琵琶湖ノ水ヲ引キテ水利ヲ京都ニ興サントスルハ百餘年来屢識者ノ唱ヘシ所ナレドモ能ク起チテ之ニ当ル者ナカリキ明治二年 車駕東幸シ一千年 帝都ノ地日ニ衰弊セントス事天聰ニ達シ畏クモ 内帑ノ金ヲ賜ヒテ産業振興ノ資ヲ佐ケラル京都府知事北垣国道君 聖旨ニ感激シ琵琶湖疏水工事ヲ断行シ府民ヲシテ永ク 皇沢ニ浴セシメント欲ス時ニ田辺朔郎君工部大学生タリ夙ニ 琵琶湖疏水ノ京都ニ利アルヲ念ヒ其ノ地ヲ踏査シテ審ニ之ヲ論ゼリ大学校長大鳥圭介君素ヨリ君ガオノ用フベキヲ知リ之ヲ知事 ニ薦ム知事君ノ設計ヲ聴キテ大ニ喜ビ十六年君ガ二十三歳ニシテ大学ヲ卒業スルニ及ビ此ノ大工事ヲ挙ゲテ君ニ囑セリ当時我ガ 国土木ノ術未進マズ工事ノ稍大ナル者ハ概之ヲ外人ニ託スルヲ常トセシカバ君ノ才ヲ知ラズシテ其ノ前途ヲ危ミ此ノ挙ヲ難ズル 者尠カラズサレド知事ハ群議ヲ却ケ君ヲ信ジテ疑ハズ君亦慨然トシテ之ニ任ゼリ乃チ水路ヲ幹枝ニ分チ湖口三保崎ヨリ藤尾 山科蹴上ヲ経テ夷川ニ至リ堀川ニ合スル者ヲ幹線トシ專之ヲ舟運ニ便シ蹴上ヨリ若王子白川ヲ経テ堀川ニ合スル者ヲ枝線トシ之ヲ灌漑及工業ニ供スル計画ヲ定ム斯クテ十八年六月三日ヲ以テエヲ起スヤ君日夜心血ヲ傾注シテ之ニ当リ要スル所ノ材料及機械ノ類或ハ遠ク外国ニ求メ或ハ自考案製作シ又部下ヲ教習指導シテ其ノ技ニ熟セシムル等百方面策致孜トシテ倦マズ工程愈進ミテ苦慮益加ル就中長等山隧道ハ長サ一千三百四十間國中ニ比ナク蹴上ヨリ南禅寺前ニ至ル傾斜鉄道ハ長サ三百二十間世界未曾有トス又南禅寺前ヨリ鴨川ニ至ル間ニハ閘門ヲ設ケ落差ヲ調節シテ舟運ニ便セリ此ノ工未半ナラザルニ米國ニ於テ始メテ水力発電所ヲ設ケタルヲ聞キ二十一年君米國ニ赴キテ之ヲ調査シ歸リテ発電所ヲ蹴上ニ創設ス是我ガ國ニ於ケル水力発電装置ノ嚆矢ニシテ世界最大ト稱セラル經營ノ苦心思フベシ二十三年四月功竣ル起工以來実ニ一千七百七十二日ヲ閱セリ之ヲ第一疏水トス同月九日竣功式ヲ舉行ス 天皇 皇后親臨シ 優詔ヲ賜ヒテ偉功ヲ褒セラル其ノ後君ハ帝國大学教授ニ任ゼラレテ東京ニ赴キ工学博士ヲ授ケラレ次イデ北海道庁鉄道部長ヨリ京都帝國大学教授ニ轉ジ現ニ其ノ任ニ在リ夷川ヨリ深草ヲ経テ伏見ニ至ル運河ハ第一疏水ノ延長工事ニシテ君ガ其ノ設計及監督ノ大綱ニ参与シタルハ東京在任中ノ事ニ属ス四十一年京都市再君ニ囑シテ第二疏水及上水道街路改修ノ三大工事ヲ行フ乃チ第一疏水ニ沿ヒテ隧道ヲ設ケ水ヲ蹴上ニ会セシメ之ニ依リテ発電力ヲ増大シ改修街路上ニ電車ヲ運転シ上水道ノ設備ヲ完成シ且蹴上以下ノ既設水路ヲ拡張シ大ニ舟運ノ便ヲ加フルニ至レリ顧フニ琵琶湖疏水ハ我ガ國空前ノ大工事ニシテ其ノ施設ハ東西諸國ニ率先セリ学識該博徳望衆ヲ率キ至誠堅忍經營宜シキヲ得ルコト君ガ如クナルニ非ザルヨリハ焉ゾ此ノ功ヲ収メン英米諸國之ヲ聞キ君ニ功牌ヲ贈リテ其ノ功ヲ稱セリ君ガ京都府ニ於ケル功績ハ之ニ止ラズ京都ヨリ宮津ニ至ル道路ヲ改修シ京都舞鶴間ノ鉄道線路ヲ選定セルガ如キ皆其ノ宜シキヲ得ザルハナシ嗚呼偉ナルカナ今ヤ京都ノ殷盛ハ昔日ニ陵駕シ疏水ノ偉績ハ永ク万人ノ頼ル所タリ疏水ノ鴨川ニ注グ処橋ヲ架シテ田邊橋ト曰フハ未君ノ名ヲ著スニ足ラズ大正十年君寿還暦ニ当ル乃チ碑ヲ建テ事ヲ記シテ其ノ功ヲ百世ニ伝フ実ニ我ガ府民ノ志ナリ

大正十二年二月 京都府知事正四位勲三等池松時和 京都芳村茂右衛門刻

以上の資料などにより、田辺像の概要は次の通りである。

田辺朔郎博士立像

設置場所：京都市左京区南禅寺福地町 蹴上公園

制作者：江里敏明（1945- ）

制作時期：1982年11月15日

建立者：京都華頂ライオンズクラブ（結成10周年記念）

設置経緯：田辺朔郎(1861～1944)は琵琶湖疏水工事を推進し、その後も京都市・京都府の土木事業にたずさわった。本像横の田辺博士顕彰碑は博士の還暦を記念しその功績をたたえるために建てられた。最初の建立地は賀茂川と高野川の合流地点の出町剣先であったが、昭和16年に現地へ移された。京都市電気局編『琵琶湖疏水及水力使用事業』（1940年同局刊）によれば、顕彰碑は大正12年7月19日除幕。碑文は山本竟山書。礎石の中に石の唐櫃を設け、疏水工事その他の資料を銅管内に封入して収めた。本碑の北隣には昭和57年に田辺朔郎の銅像が建立された。

本像横の碑文には、以下の記載がある。

田辺朔郎は文久元年（一八六一）江戸に生れる 明治十五年（一八八二）工部大学校学生であった田辺は京都の衰微を回復するため琵琶湖疏水の実現に奔走する京都府知事北垣国道に会い請われて翌年京都府に着任し財政と技術を案ずる反対派の説得に知事を助け、明治十八年（一八八五）起工後は設計、施工の総責任者となる。当時はほとんど機械、資材とてなく、いわば人力のみに頼る長さ二四三六米の長等山トンネルの工事は困難を極めたが、卓抜な技術と強い信念、不屈の精神力によりこれを克服した。また優れた先見性により世界で二番目の水力発電をこの蹴上の地に実現し、産業動力源とするとともに、わが国初の路面電車を京都に走らせた。明治二十三年（一八九〇）四月、晴れの通水式を迎えた田辺朔郎は二十八才であった。

わが国土木技術の黎明期を開拓した偉大な先覚者であると同時に、近代都市京都の基礎をつくった恩人田辺朔郎の像を建てここに顕彰する。 京都市

なお、本像の近くに**疏水工事の「殉職者之碑」**もあった。こちらの碑も紹介する予定であったが、本稿の容量が限界に近づいたので、その紹介は次回に延期する。次回の記事はこちらをご覧ください：<http://masaniwa.web.fc2.com/RW-230.pdf>

参考資料

1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>

2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>

3) のサイト：<https://www.kyo.or.jp/brand/award/ceremony.html>

4) のサイト：<https://m.facebook.com/Nitten.ART/photos/766378323453192>

5) のサイト：<https://dl.ndl.go.jp/pid/978761/1/1>

6) のサイト：

https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/ishibumi/gyoseilist_frame.htm
1